

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 1 月調査結果 - -

(平成 1 5 年 1 月 3 1 日)

調査期間：平成 1 5 年 1 月 2 0 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 5 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 7 卸売業 2 3 2
小売業 7 4 6 サービス業 6 0 4

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年1月調査結果のポイント】

景況感は2カ月連続悪化 先行き不安感一段と強まる

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（50.5）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して52.8となった。4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしてきたDI値は、先月、今月と2カ月連続で悪化幅が若干拡大した。

業種別の業況DIを見ると、全業種でマイナス幅が拡大しており、DI値の水準は4カ月連続でマイナス50台と低水準で、消費の低迷や競争激化、商品単価の下落、先行き不安感を訴える声が多数寄せられており、中小企業の足元の景気は厳しい状況となっている。

【建設業】では、引き続き「官民とも受注量の減少で、厳しい状況が続いている」（建築工事）、「公共工事の設計単価が下落し、受注高、利益が共に減少」（一般工事）といった声が多く、受注が増加しても、「年度末にかけて受注が増えたが、先行きは不安」（土木工事）とのコメントも寄せられている。また、資金繰りに関しては、「金融機関の再編の結果、経営合理化で金利の上昇やサービスの低下が進行している」（一般工事）との声や、先行きについては、「需要と供給のアンバランスが解消されず、今後ますます厳しい状況になると思われる」（木造建築工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「少し持ち直した景況が、悪化してきており、業績に二極分化の兆しが出てきている」（非製鋼鋼材）との声や、「コスト競争が激しく、収益性の悪化が心配」（自動車・附属品）、「外注については抑えるという動きにあり、外注業者などは厳しくなりそう」（船舶製造・修理）と、コスト削減圧力を訴える声のほか、「市内での生産量は減少しているが、海外への委託生産の割合が増えている」（ゴムプラスチック履物）と、国内の空洞化を訴える声が寄せられている。また、「昨年に続き原材料の値上げが予想される」（加工紙）、「原材料は不足、値上げだが、納入単価は値下げを要求されている」（鉄素形材）と、仕入れコスト上昇を訴える声や、先行きについては、「国内の冷え込みが予想以上に強く、輸出に左右されそう」（金属製品）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「消費者需要が冷え込む中で、卸売業全体的に景況は今一つで、食品関係は価格競争が激しい」（農畜産水産物）、「大型店の攻勢で主販売先である一般小売店の廃業が続いており、右肩下がりの状況」（各種商品）、「漁獲量の大幅減少により業況全ての面で悪化」（農畜産水産物）と、厳しい状況を訴える声の一方、「仕入れ単価が高いため、価格が全体的に上がっている」（農畜産水産物）、「経営努力により粗利益は上がっている」（各種商品）といったコメントも寄せられている。

【小売業】では、「新春福袋、成人式にかけて高額品、特に貴金属の販売が顕著に増加」（百貨店）との声があるものの、「相変わらず低価格商品が主流で、客数は大きく減少していないが、単価が低い分、売上が非常に苦しい」（百貨店）といった、消費の低迷、単価下落を訴える声が多い。また、「例年は正月明けからの処分品の値下げ時期が、正月すぐからに早まっている」（百貨店）、「商品により高くても売れる物、安くしなければ売れない物が鮮明になりつつある」（商店街）との声や、「各個店の改善合理化は一通り済み、若干客足が戻りつつある」（商店街）とのコメントも寄せられている。

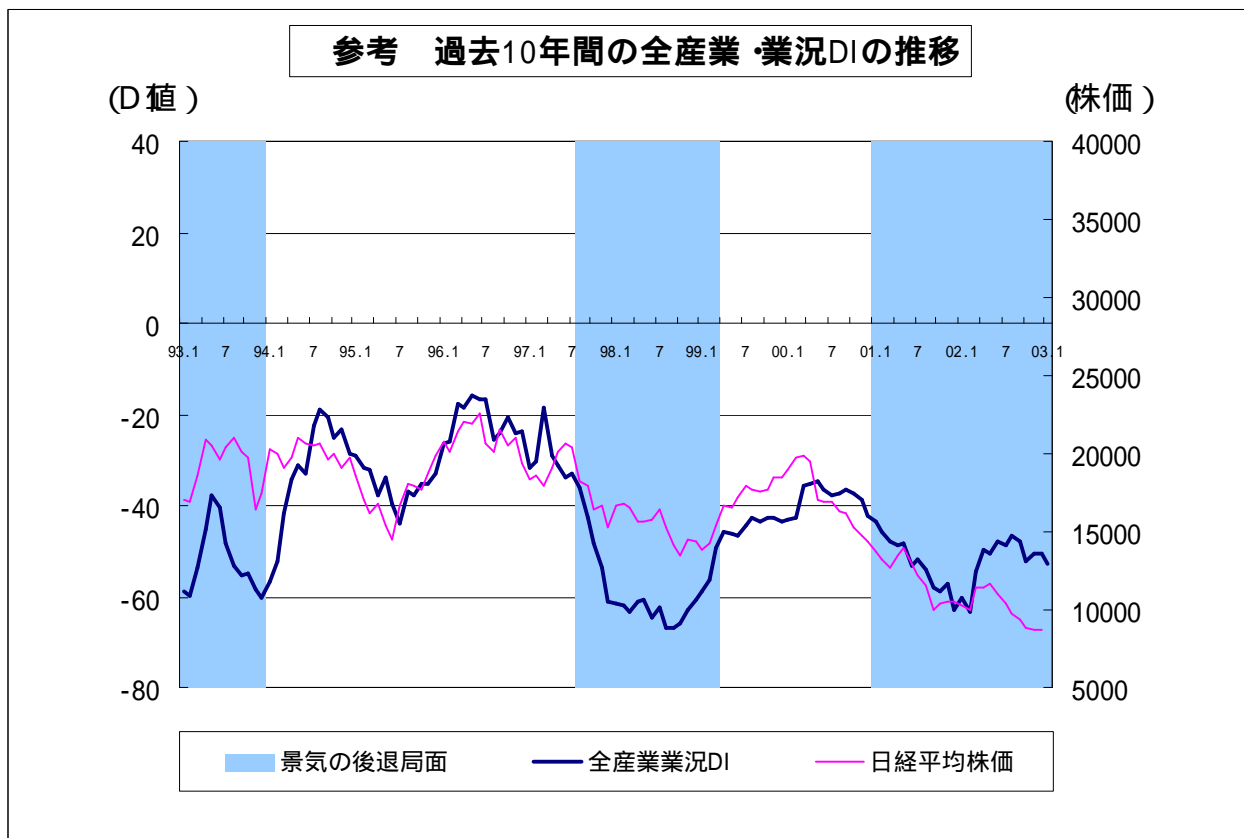
【サービス業】では、「宿泊部門は東南アジア方面からのツアー増により順調」(旅館)といった声があるものの、「年末年始の宴会等の激減により、売上不振」(旅館)、「企業単位の宴会は減っているうえ、小人数で居酒屋で済ませてしまい、二次会でスナックを利用するケースも減っている」(食堂、レストラン)と、宴会需要の低迷を訴える声や、「経費削減を理由に契約解消が出てきている」(ソフトウェア)、「経費節減のため、少しのキズは直さない傾向が続いている」(自動車整備)といった声が寄せられている。

売上面では、前月水準より、D I 値のマイナス幅が、製造は横ばい、小売で若干縮小となったが、他の3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は前月水準よりマイナス幅が3.6ポイント拡大して48.1となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

採算面では、建設、製造、卸売でマイナス幅が若干縮小したが、小売、サービスで拡大したため、全産業合計の採算D I は1.9ポイントマイナス幅が拡大して47.6と、業況および売上D I とともに、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が47.0と、昨年同時期の先行き見通し(52.4)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の減少や消費不振、商品単価の下落、仕入れコストの上昇に関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 50.5 ）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して 52.8 となった。4月以降、低水準で一進一退を繰り返す不安定な動きをしてきたDI値は、先月、今月と2カ月連続で悪化幅が若干拡大した。

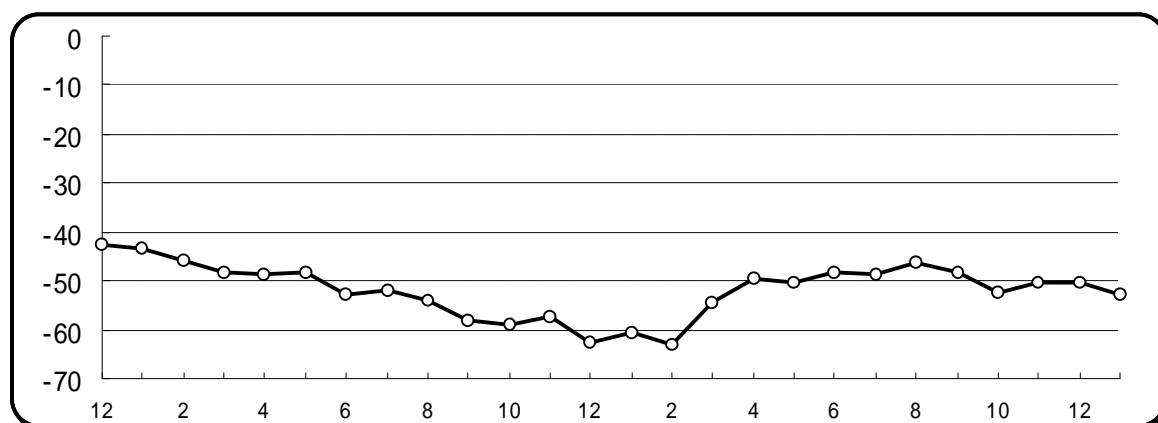
向こう3カ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 47.0 と、昨年同時期の先行き見通し（ 52.4 ）と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 8月	9月	10月	11月	12月	15年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	46.4	48.1	52.3	50.4	50.5	52.8	47.0 (52.4)
建設	55.7	56.8	63.7	62.9	63.0	65.5	59.8 (64.9)
製造	44.8	49.2	53.7	46.7	47.7	49.1	41.9 (53.3)
卸売	46.6	50.6	57.1	44.9	43.1	46.2	41.5 (49.0)
小売	45.0	42.3	45.8	46.0	48.6	51.1	45.8 (47.3)
サービス	43.4	47.2	49.4	53.7	50.4	53.4	48.0 (50.8)

先行き見通しは当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年1月の先行き見通しDI<以下同じ>

業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

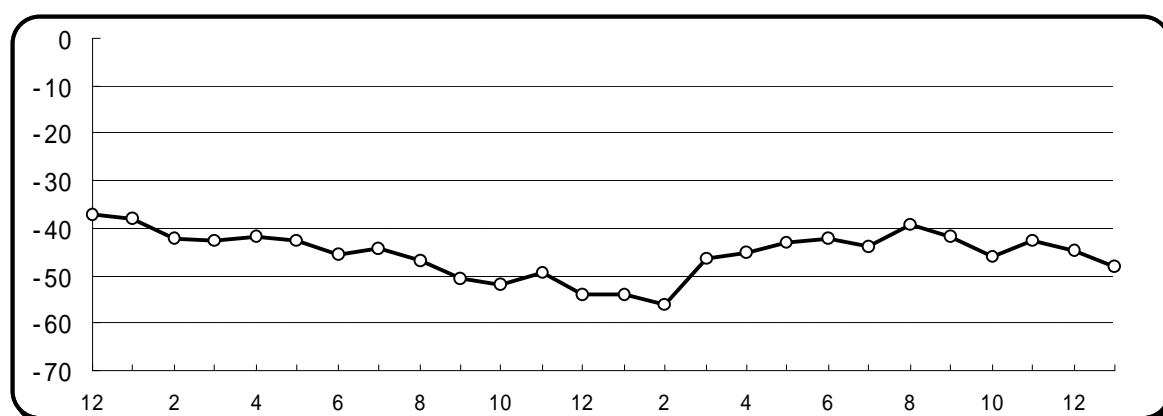
売上面では、前月水準より、D I 値のマイナス幅が、製造は横ばい、小売で若干縮小となったが、他の3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は前月水準よりマイナス幅が3.6ポイント拡大して48.1となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が42.2と、昨年同時期の先行き見通し(46.7)に比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	14年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2～4月
全産業	39.1	41.9	46.0	42.5	44.5	48.1	42.2 (46.7)
建設	45.7	47.0	56.9	56.3	53.9	64.4	55.5 (62.1)
製造	37.6	42.8	44.5	41.2	39.7	39.7	33.9 (45.7)
卸売	39.8	48.1	55.8	37.1	38.3	42.7	36.3 (46.2)
小売	39.4	40.2	39.8	35.8	45.9	45.7	42.9 (42.9)
サービス	35.7	37.3	44.4	44.7	44.2	51.8	44.3 (42.5)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

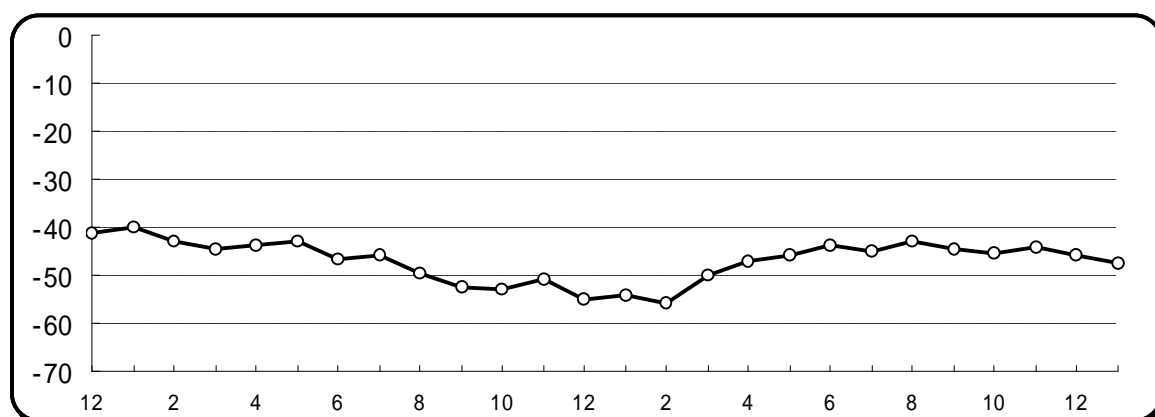
採算面では、建設、製造、卸売でマイナス幅が若干縮小したが、小売、サービスで拡大したため、全産業合計の採算D Iは1.9ポイントマイナス幅が拡大して47.6と、業況および売上D Iとともに、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が41.4で、昨年同時期の先行き見通し(46.7)と比べて上向いているが、依然として低い水準にある。

採算D I (前年同月比) の推移

	14年 8月	9月	10月	11月	12月	15年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	43.0	44.5	45.6	44.2	45.7	47.6	41.4 (46.7)
建設	59.6	56.8	60.5	61.3	61.9	61.6	57.9 (66.2)
製造	44.9	45.9	51.4	46.3	48.9	47.6	39.7 (49.6)
卸売	40.4	48.1	50.3	37.1	35.3	34.5	31.0 (40.8)
小売	36.3	35.5	29.5	33.9	37.1	40.7	35.6 (38.6)
サービス	38.7	44.3	47.6	45.7	46.2	52.0	43.5 (42.5)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	14年 8月	9月	10月	11月	12月	15年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	32.8	34.7	35.9	35.7	35.9	37.1	35.6 (40.5)
建設	44.5	48.5	45.7	49.2	49.6	50.8	49.8 (47.3)
製造	37.7	38.2	42.3	36.9	38.4	39.8	35.7 (47.4)
卸売	24.8	26.7	29.9	31.9	27.6	28.9	30.2 (36.8)
小売	25.3	28.9	26.8	27.5	27.9	28.9	29.9 (32.4)
サービス	29.4	30.3	33.7	35.1	35.3	36.7	35.1 (39.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で悪化超感が強まったことから、全産業合計のD Iも2カ月連続で悪化超感が若干強まる。

【先行き見通しD I】建設を除く4業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも悪化超感弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	14年 8月	9月	10月	11月	12月	15年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	0.4	0.7	1.7	2.6	3.1	2.3	4.3 (0.6)
建設	1.8	3.4	6.4	6.0	3.2	1.8	3.2 (0.7)
製造	5.9	8.6	12.3	12.2	15.7	14.1	13.5 (5.5)
卸売	8.8	5.7	9.8	2.4	2.4	2.9	3.5 (7.1)
小売	3.1	9.1	1.8	3.0	5.1	4.6	1.9 (5.0)
サービス	3.8	3.3	4.8	7.0	6.0	3.0	3.0 (5.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設、小売で下落超感が弱まり、製造、卸売、サービスで強まる。全産業合計では下落超感が強まったが、全産業合計で4カ月連続の上昇超過となった。

【先行き見通しD I】サービスを除く4業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まり、全産業合計でも下落超感弱まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	1 4 年 8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 5 年 1 月	先行き見通し 2 ~ 4 月
全 産 業	14.9	14.2	16.4	15.8	15.5	15.3	17.7 (18.8)
建 設	33.8	33.1	34.2	35.7	33.0	31.9	33.7 (34.8)
製 造	21.8	20.5	25.6	21.6	20.9	20.9	21.6 (28.5)
卸 売	16.8	16.3	11.0	15.0	16.2	14.0	16.3 (15.0)
小 売	4.9	3.8	7.0	4.2	4.2	5.8	8.9 (9.1)
サービ	5.8	6.7	8.5	10.1	11.4	10.0	13.5 (10.4)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】製造、小売を除く 3 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも過剰超感が若干弱まる。

【先行き見通し D I】卸売、サービスを除く 3 業種で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業合計でも過剰超感が若干弱まる見通し。

【平成15年1月の景気キーワード】

先行き不安感

業種を問わず、景気の先行き不安感の高まりを訴える声が一段と強まってきている。建設業からは、「公共工事、民間設備投資とも依然として状況は厳しく、好転する兆しが見られない」(赤穂・一般工事)、「先の見通しが立たないこともあって、設備投資が少ない」(松山・電気工事) 製造業からは、「小ロット、短納期の受注が多く、安定した受注が期待できれば前向きな投資ができるが、設備投資、増員は先行き不透明で踏み切れず、現有の設備、人での対応に苦しんでいる」(松任・金属加工機械)、「中長期的には受注減少となるだろう」(安城・自動車、附属品)と、比較的好調な業種からも、先行きの不安感を訴える声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「需要は依然として低迷状態を脱しておらず、先行きに不安」(秋田・建築材料卸)、「先行き不安感やデフレ進行によって消費が収縮している」(札幌・百貨店)、「過去に経験の無い落ち込み現象で今後が不安」(むさし府中・そば、うどん店)といった声が寄せられている。

消費低迷

昨年12月の年末商戦の不振に続き、消費の低迷を訴える声が多く、卸売、小売からは、「消費需要の減退から売上も低調で、春物の前倒し売り込みに力を入れているが厳しい」(長岡・繊維品卸)、「初売りを1日繰り上げ1月2日からとしたが、その増加分を加えても前年並みで推移」(横浜・百貨店)、「福袋とクリアランスセール初日は売上好調だが持続せず、売れ筋商品が売り切れると価格が安くても売れない」(京都・百貨店)、「特別なイベント、催事、売出しも1~2日だけ効果を示し持続力が無い」(熊本・百貨店)といった声が多く、サービス業からも、「新年会のシーズンだが、官公庁や企業の利用が少なくなっており、個人客も3~4人の小グループでの来店が多くなっている」(静岡・旅館)、「正月および成人式当日も客足は鈍いまま推移した」(久慈・一般飲食店)、「成人式に期待したが、髪もメイクも自分でする人が多く、売上が伸びない」(須賀川・美容)といった声が寄せられている。

倒産・廃業

倒産・廃業等に関する声が増えてきており、「業種や規模によって業績に片寄りが見られ、強い者が生き残り、弱い者が倒産・廃業・吸収合併等、淘汰される状況にある」(浜田・一般工事)、「廃業・事業縮小等により組合脱会者が増加」(瀬戸・陶磁器、同関連)、「業界として再編・縮小の動きが目立ってきた。金融機関の目も厳しくなったように感じる」(西宮・酒類製造)、「仕入れ先の倒産が増加」(紀州有田・商店街)、「長年営業した老舗の閉店が相次ぐ」(柏・一般飲食店)、「暮れから2月ごろにかけて、組合員の中で、4~5件の廃業話がでてきている」(川口・料亭)、「昨年12月以降、宴会の数が大幅に減少し、廃業が多くなっている」(釧路・食堂、レストラン)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 11月	先行き不安感	競争激化・単価下落	資金繰り悪化
12月	先行き不安感	歳末商戦低調	倒産・廃業
15年 1月	先行き不安感	消費低迷	倒産・廃業

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上D Iも2カ月振りに拡大。採算D Iは4カ月振りに若干縮小した。引き続き「官民とも受注量の減少で、厳しい状況が続いている」(建築工事)、「公共工事の設計単価が下落し、受注高、利益が共に減少」(一般工事)といった声が多く、受注が増加しても、「年度末にかけて受注が増えたが、先行きは不安」(土木工事)とのコメントも寄せられている。また、資金繰りに関しては、「金融機関の再編の結果、経営合理化で金利の上昇やサービスの低下が進行している」(一般工事)との声や、先行きについては、「需要と供給のアンバランスが解消されず、今後ますます厳しい状況になると思われる」(木造建築工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上D Iは横ばい、採算D Iは2カ月振りに若干縮小した。「少し持ち直した景況が、悪化してきており、業績に二極分化の兆しが出てきている」(非製鋼鋼材)との声や、「コスト競争が激しく、収益性の悪化が心配」(自動車・附属品)、「外注については抑えるという動きにあり、外注業者などは厳しくなりそう」(船舶製造・修理)と、コスト削減圧力を訴える声のほか、「市内での生産量は減少しているが、海外への委託生産の割合が増えている」(ゴムプラスチック履物)と、国内の空洞化を訴える声も寄せられている。また、「昨年に続き原材料の値上げが予想される」(加工紙)、「原材料は不足、値上げだが、売上単価は値下げを要求されている」(鉄素形材)と仕入れコスト上昇を訴える声や、先行きについては、「国内の冷え込みが予想以上に強く、輸出に左右されそう」(金属製品)といった声も寄せられている。
卸 売	業況D Iは3カ月振りにマイナス幅が拡大し、売上D Iも2カ月連続で拡大。採算D Iは3カ月連続で縮小した。「消費者需要が冷え込む中で、卸売業全体的に景況は今一つで、食品関係は価格競争が激しい」(農畜産水産物)、「大型店の攻勢で主販売先である一般小売店の廃業が続いており、右肩下がりの状況」(各種商品)、「漁獲量の大幅減少により業況全ての面で悪化」(農畜産水産物)と、厳しい状況を訴える声の一方、「仕入れ単価が高いため、価格が全体的に上がっている」(農畜産水産物)、「経営努力により粗利益は上がっている」(各種商品)といったコメントも寄せられている。
小 売	業況D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上D Iは2月振りに縮小。採算D Iは3カ月連続で拡大した。「新春福袋、成人式にかけて高額品、特に貴金属の販売が顕著に増加」(百貨店)との声があるものの、「相変わらず低価格商品が主流で、客数は大きく減少していないが、単価が低い分、売上が非常に苦しい」(百貨店)といった、消費の低迷、単価下落を訴える声が多い。また、「例年は正月明けからの処分品の値下げ時期が、正月すぐからに早まっている」(百貨店)、「商品により高くても売れる物、安くしなければ売れない物が鮮明になりつつある」(商店街)との声や、「各個店の改善合理化は一通り済み、若干客足が戻りつつある」(商店街)とのコメントも寄せられている。
サービス	業況、売上D Iは2カ月振りに、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「宿泊部門は東南アジア方面からのツアー増により順調」(旅館)といった声があるものの、「年末年始の宴会等の激減により、売上不振」(旅館)、「企業単位の宴会は減っているうえ、小人数で居酒屋で済ませてしまい、二次会でスナックを利用するケースも減っている」(食堂、レストラン)と、宴会需要の低迷を訴える声や、「経費削減を理由に契約解消が出てきている」(ソフトウェア)、「経費節減のため、少しのキズは直さない傾向が続いている」(自動車整備)といった声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、東海を除く8ブロックでマイナス幅が拡大し、全ブロック合計でも2カ月連続でマイナス幅が若干拡大した。

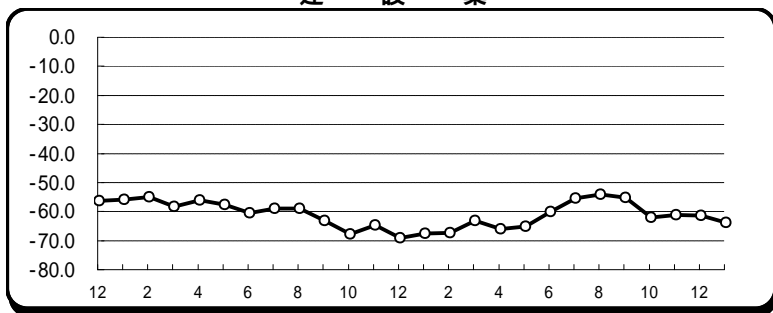
ブロック別の向こう3カ月(2月~4月)の業況の先行き見通しは、北海道、四国を除く7ブロックで、昨年同時期の先行き見通しと比べマイナス幅が縮小し、全ブロック合計でも縮小しているが、依然マイナス幅は大きく、低い水準にある。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

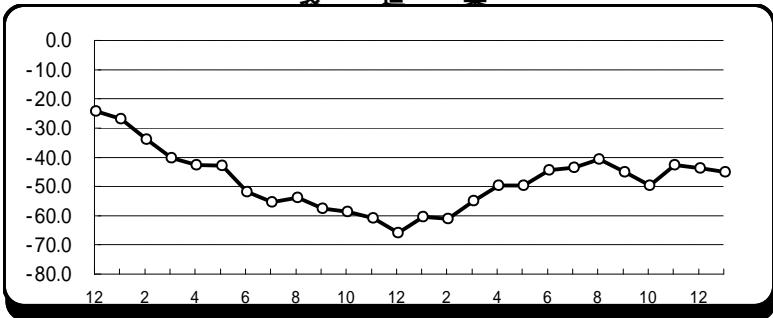
	14年 8月	9月	10月	11月	12月	15年 1月	先行き見通し 2~4月
全 国	46.4	48.1	52.3	50.4	50.5	52.8	47.0 (52.4)
北海道	45.4	40.3	41.3	50.8	51.1	55.7	46.6 (44.9)
東 北	50.3	51.5	53.2	54.0	46.0	52.6	57.3 (63.3)
北陸信越	38.5	44.3	47.0	45.4	46.5	51.3	45.5 (52.7)
関 東	42.6	46.1	54.7	51.1	52.9	54.5	42.3 (44.8)
東 海	43.2	49.7	53.0	51.2	49.7	45.5	42.1 (60.9)
近 畿	55.1	52.6	58.0	53.3	52.2	54.3	51.8 (60.7)
中 国	44.4	48.1	49.3	50.6	45.3	50.3	49.0 (50.7)
四 国	56.3	55.4	60.6	55.0	62.6	65.5	53.6 (46.6)
九 州	46.2	45.7	46.5	41.5	47.5	48.1	43.1 (51.3)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

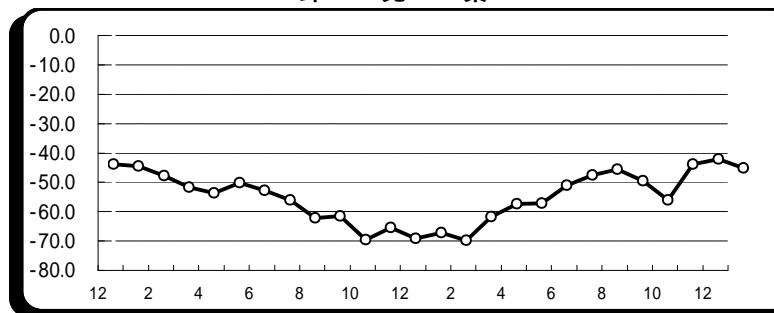
建設業



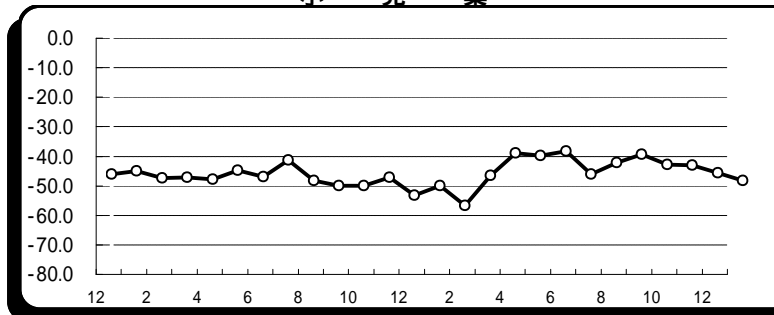
製造業



卸売業



小売業



サービス業

